

長野県・「水」の恩恵を受ける松本、安曇野市

～地域の観光、産業に貢献～

日本不動産研究所 松本支所
不動産鑑定士 宮原 一繁

水は資産です。北アルプスからの恵まれた「水」は、松本・安曇野市を中心とした地域に、観光・産業に多大な恩恵を与えています。

国土交通省千曲川河川事務所調査（平成19(07)年～平成22(10)年調査）によると、松本盆地には高瀬川・穂高川・犀川の合流部を底にしたすり鉢状の地下水源があり、総量は180～193億トンとされ、これは諏訪湖の貯水量のほぼ300倍に当たります。水源確保の問題・水量減少の問題・水利用についての問題等について、行政・民間を交えた検討が進みつつありますが、今回は水と地域との関わりについて、紹介します。

【松本市】

松本市内には複数の湧水地があり、各湧水地を巡る観光ルートが3ルートあります。また市内の水路には湧水からの透明な水が流れており、町並みの景観を引き立てています。

ルート1：国宝松本城・北門～北門大井戸～かき船～松本ホテル花月～外濠小路～縄手横町～女鳥羽川

ルート2：ナワテ通り～鎮神社～宿場の碑～かわかみ建築設計室～女鳥羽の泉～東の十王堂跡～槻井泉神社～鯛萬の井戸～上松線乗合自動車発祥の地



「女鳥羽川とナワテ通り」

ルート3: 妙勝寺の井戸～薬祖神社～伊織霊水～翁堂～はかり資料館～蔵・シック館～徳竹の井戸～ (※) 源智の井戸～古民家～源地の水源地井戸



「源智の井戸（手前）と瑞松寺」

なお、松本城は平城ですが、河川（女鳥羽川）をも利用した構えとして設計されています。女鳥羽川は、もともと城郭の北西を流れていたものを、武田氏が城下を囲む防御施設として、今の流れに変えたと言われています。

【安曇野市】

北アルプスからの湧水群（憩いの池）があり、観光ポイントのひとつになっていると共に、下流域の山葵（わさび）田やニジマス等養魚場の水源ともなっています。



「安曇わさび田湧水群（憩いの池）」



「豊かな水に恵まれた美しいわさび田」

憩いの池は万水川沿いに所在し、北アルプスの雪解け水が地下から湧水しています。山葵田は、安曇野市郊外の犀川西側沿いに広がっており、観光スポットになっています。また山葵は、農産物として地域の特産となっています。

養魚場は、犀川沿いで安曇野市明科地区に集中しており、ニジマス等が養殖されています。地域の産業のひとつであり、長野県水産試験場が設置されています。

なお近年、水産業（ウォータービジネス）の動向からも目が離せません。昨年の東北大地震と原発事故後、需要の裾野が広がったと云われています。

現在、松本市には1社、安曇野市では計画を含め4社、松川村には1社が、それぞれ水を製造しています。日本ミネラルウォーター協会調査によると、長野県の平成23(11)年都道府県別生産量は5.5万トンで、全国第9位となっています。

また、安曇野市の製造品出荷額が県内1位となっており、これだけ工場集積が進んだことも、豊富な水量が要因の一つであることを否定できません。

水は貴重な共有の地域資源である認識が、益々強まっています。私権との調整を重ね、地域生活と地域産業の発展に寄与する事を願ってやみません。

(※) 源智の井戸：松本城主小笠原家の家臣であった河辺与三佐衛門源智の持ち井戸だった。名水で、町の酒造業者はことごとくこの水を使ったとされる。